

宮 Labyrinth of Darkness

僕はこの手で彼女を葬り去る

薬井 祐介

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

闇の迷宮 Labyrinth of Darkness

僕はこの手で彼女を葬り去る

【Nコード】

N9077X

【作者名】

薬井 祐介

【あらすじ】

「他に好きな人がきたんだ」

中学三年生の冬。三村和也は幼馴染である坂田凜にそう告げて、小学生の頃からの長年に渡る交際関係を終わらせた。坂田に申し訳のない気持ちを抱きながら。自分に嫌悪感を抱きながら……。

だがハッピーエンドにはなってくれなかった。彼女はその後三村が新たに好きになった女性を殺害し、刑務所へ送られてしまう。三村は事件のせいで、学生時代の一部を黒く塗りつぶされることとな

った。

そして数年後。彼女が帰ってきた。

プロローグ

闇の中を歩いている。全てに恐怖を与え、全てを覆い尽くす、闇の中を。

ここは地獄だ。仕事も娯楽も存在せず、ただ、ひたすら歩き続けることしかできない。立ち止まると、後ろから、死神が血を抜こうと迫ってくる。心を持たず、思考することさえできない、本当の死へ誘ってやろうと、襲いかかってくる。髑髏どくろの面を被り、鉄さえ軽く切ってしまう程に鋭く、大きな、死の鎌を持って……。

突然、闇の底から不気味な笑い声が聞こえてきた。もう聞き慣れてしまった、死神の笑い声だ。人間のモノとは程遠い、背筋の凍りつくような笑い声が、闇中に響いている。

今度はいつたい、何をするつもりなのだろう。

今まで聞いてきた他の死者たちの悲鳴が、頭の中に蘇える。

死神は笑い声を上げると、その後には必ず何か質の悪い悪戯をしてくる。罪を犯す原因となった出来事や、最愛の人が苦しむ姿を闇の中に映し出して、心の炎を様々な色に変化させる。

死神はそれを遙か遠くの闇の底から眺め、嘲笑い、地獄にある唯一の娯楽として、心の底から楽しむのだ。

尤も、彼らに心などという人間らしいモノがあるとは、わからないが。

笑い声が止んだ。闇に、再び異様な静寂が訪れる。無音で何も聞こえない。耳がなくなっただかのような感覚に、捕らわれてしまう。

同時に、目の前の闇に青白い顔が浮かび上がった。万人受けしそうな程に整ったその顔は、見覚えがある人物の、憎い顔だった。

コイツだ

体に稲妻が走り、青紫色の小火だった心の炎が、灼熱のマグマのように赤く、燃え盛っていく。動悸が段々と激しくなり、目に写る闇が、どす黒い血の色に塗りつぶされた。

コイツに騙されたんだ

頭の中では、死の顛末がゆっくりと再生され始めていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9077x/>

闇の迷宮 Labyrinth of Darkness

僕はこの手で彼女を葬り去る

2011年11月13日14時56分発行